

収穫の喜びを分かち合う

12月6日(水)、用瀬小学校で、5年生児童が中心となって取り組んだ米作りの収穫を感謝する「全校収穫祭」が行われました。児童たちは、米づくりを指導した農家やふだんお世話になっている学校安全ボランティアのみなさんを招待。慣れない手つきで杵を使いながら蒸し上がったもち米をつき、手でこねてもち作りを楽しんでいました。その後、出来上がったつきたてのもちをみんなでおいしくいただき、みんなで収穫の喜びを分かち合いました。



心奏でるクリスマスコンサート

11月28日(火)、国府町中央公民館で「クリスマスコンサート～コントラバスとピアノの調べ～」が開催されました。普段はオーケストラで縁の下の力持ち的な存在のコントラバスが、この日のコンサートではピアノとともに主役として演奏。来場した約160人の聴衆は重厚な旋律に心いやされ、演奏が終わると盛大な拍手を送っていました。



わらを編む貴重な体験に大喜び

12月8日(金)、浜村小学校で、気高町下坂本の岩谷勲^{いわたにいさお}さんを講師に招きわら細工教室が開催され、5年生の児童がわら細工作りに挑戦しました。たたいたわらの端を足の指で挟み、両手につばをつけて「シャツシャツ」と縄にしていって岩谷さんの見事な手さばきに児童たちは大歓声。その後、わらを格子に組み合わせて亀の甲羅を作ったり、針金を使いながら馬の形にしたりして、2時間ほどで立派な作品を完成させました。参加した児童たちはわらだけでいろいろな作品が出来上がることに感心し、「できた作品は机に飾りたい」と喜んでいました。



自慢のカレーを食べてごしない

11月19日(日)、さざんか会館で「鳥取カレーコンテスト」が開催されました。これは、平成15年から17年まで、鳥取市の1世帯あたりのカレー消費量が日本一であったことから、鳥取をカレーのまちとして売り出そうと活動している鳥取カレー



倶楽部が開催したものです。来場者が審査員として、予選を通過した「うち家の自慢カレー」5作品を次々と試食。用意された各200食は瞬く間になくなり、審査の結果、地元の白イカやちくわを使った「鳥取大スキカレー」が最優秀賞に輝きました。

美しい青谷を次世代へ

12月6日(水)、青谷を美しくする会(泉則男代表)のみなさんが、青谷町総合支所の花壇の草刈りや周辺の清掃活動を行いました。同会は、日ごろから河川の清掃や青谷駅周辺のごみ拾いを行うなど、地域の美化活動に取り組んでいます。今後も、地域の人と一緒に青谷の美しい自然を次世代へ残すことを目的に活動を進めていきたいとのことです。

